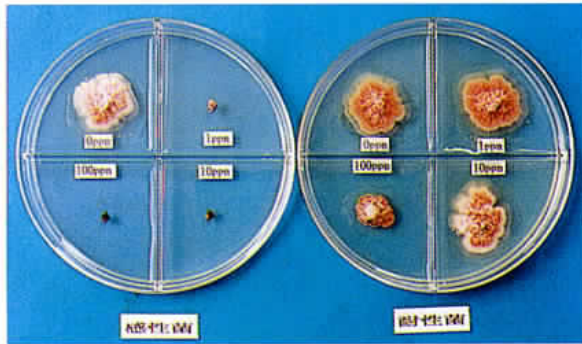


かんきつそうか病新防除法

かんきつそうか病防除はベンレート水和剤やトップジンM水和剤等により、完全防除がなされていた。しかし、近年、南予地域の温州ミカンを中心に、ベンレート水和剤等の効果減退の声が高まってきた。そこで、その原因を調査した。

ベンレート水和剤等の効果が減退した現地ほ場からそうか病菌を採集して、ベンレート水和剤の主要成分であるベノミル含有の培地で培養したところ、100ppm以上でも生育する薬剤耐性の菌株が認められた(写真)。



ベンレート耐性菌の検定状況

この耐性菌と薬剤に耐性のない感性菌を用いて防除試験を実施した結果、耐性菌接種区では全く効果が認められなかった。この結果、ベンレート水和剤等の効果減退の原因は薬剤耐性菌によるものと判断された。

県下各地(約70園地)のそうか病菌を調べた結果、薬剤耐性の認められた園地は約40%であり、南予地域に広く耐性菌が分布することが認められた(図1)。耐性菌の出現は、ベンレート水和剤等の多数回散布が引き金になっているものと推察される。

ベンレート水和剤に対する耐性菌が高率に発生しているほ場において、有効薬剤の探索を行ったところ、フロンサイドSC剤やマネージ水和剤の効果が顕著に認められ(図2)、

これら薬剤を県防除指針に採用した。また、そうか病の多発する園地では、薬剤防除とともにせん定時の越冬病斑葉の除去が有効であった。

(病害班：主任研究員 三好孝典)

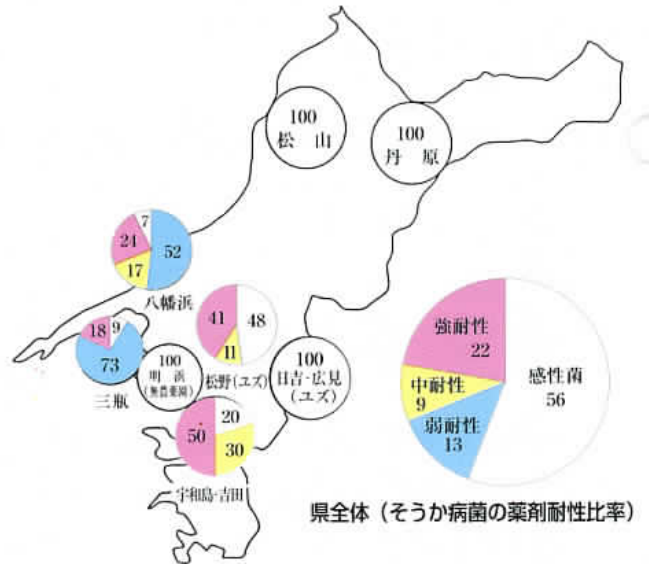


図1 薬剤耐性そうか病菌の県内分布

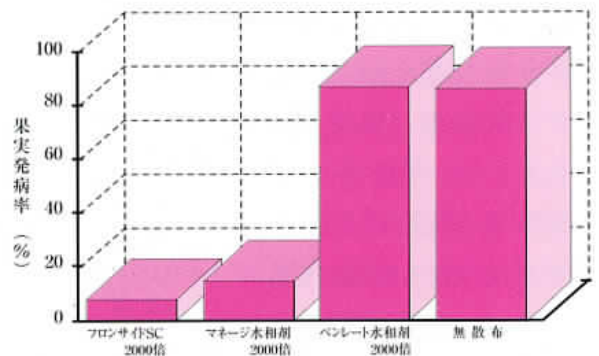


図2 薬剤耐性菌園場における防除効果 (1995) (宇和島市)

編集発行 愛媛県立果樹試験場
〒791-01
松山市下伊台町1618
TEL 089-977-2100
FAX 089-977-2100